

## 梅本和泰教授のご退職にあたって

経済学部長 伊 沢 俊 泰

梅本和泰先生は、2013年3月末をもって名古屋学院大学を定年退職されました。梅本先生は、42年の長きにわたり、本学ならびに経済学部の発展のために貢献してこられました。ここに、本学と経済学部を代表して心より先生へ感謝の意を表したいと存じます。

梅本先生は、1942年に名古屋市でお生まれになり、学部・大学院を通じて近畿大学で化学研究の研鑽を積み、1971年4月に本学の経済学部助手として就任されました。その後、1974年には経済学部講師、1977年には准教授に、と順調に昇進され、1985年には経済学部教授に昇任されました。その間、1979年3月には、近畿大学より「ハッカ属植物精油の成分に関する研究」で工学博士（論文）の学位を授与され、1983年4月～1984年3月には、西ドイツ（当時）のベルリン工科大学有機化学研究所の客員研究員として研究活動に従事されました。

経済学部教授に就任されて以降は、旧一般教育及び共通教育の自然科学部門における中心メンバーとして、経済学部のみならず全学における教育研究に貢献され、なかでも、1992年4月～1995年3月の3年間は、産業科学研究所（のちの総合研究所）の所長を務められ、本学の学術研究の発展と研究活動支援サービスの向上に多大な功績を残されました。経済学部の単科大学としてスタートした後、外国語学部や商学部の新増設が続き、人文・社会科学系分野を中心に発展していった本学において、学問分野の異なる自然科学・化学の専門家として着実に教育研究活動が続けることは並大抵の努力ではなかったことと拝察いたします。ご専門の化学の知見を展開し、石油化学産業の成り立ちや環境・エネルギー問題など、人文・社会科学専攻の学生にも解りやすく、化学の重要性を説いていただきました。梅本先生の教育研究活動がもたらしたご功績に心より敬意を表したいと存じます。

梅本先生は、一般・初学者向けの化学やエネルギー文明の入門書も著しておられますが、専門的には終始一貫して「ハッカ属植物」に関する化学研究に取り組んでこられました。「一以貫之」（一を以って之を貫く）。先生の〈主要業績目録〉を拝見しますと、大学人として大切にすべき研究態度を思い起こします。また、先生は、学生に対して常に「厳しくやさしく」接してこられました。講義中に、受講態度の悪い学生を厳しく叱りつけるのも、研究室での茶話会でゼミの学生をやさしくもてなすのも、どちらも梅本先生でした。私たちは、先生に、学生を教育する大学人としての心構えを教えてくださいました。

梅本先生は、2013年4月に本学の名誉教授となられました。先生が学内で直向きに教育と研究に取り組まれている姿や瀬戸キャンパスの一角で栽培されていた研究用植物の手入れを丹念にされているご様子は、私たちの記憶にいつまでも残ることでしょう。先生が、今後とも、ますますご健康でご活躍されますことを心よりお祈り申し上げます。